

# てん

## 新聞

09.6. No.145  
発行 市岡 健  
発着 0883-88-5292

山では、ミズキやウツギの白い花がよく見られるよう  
になつてきました。ホタルが話題になる頃には不思議に  
ホタルブクロの花が咲きはじめてきます。

ハルゼミも鳴き、我が家の巣箱からは、五月二十九日にリビウ  
がうも単立ちました。そこで、祖谷の溪谷にアカリョウ  
ビンの「キロロー」という鳴き声。確かに季節は一夏にな  
つています。毎年くりかえされる季節ですが、緑深い

山々の中で、不思議な世界が広がっています。  
祖谷の高山は、ミヤマクササギが

広がっている。原生林の中にも、ミヤマクササギが一面に見られ、いまは、この山、一面の緑が少なくなっています。

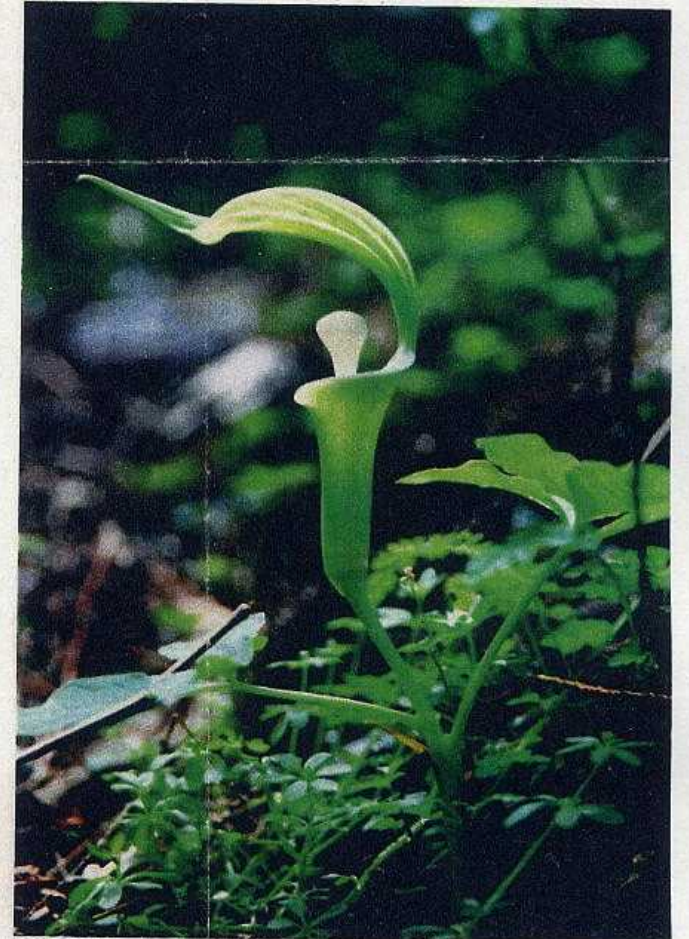


剣山のハルカオレン

# 緑、深まる山々

## 鹿も猿も猪も 動物も植物も

## 生き生き



また、ほとんどの山で見られるようになった植物も少なくなりました。  
人間は勝手なもので、鹿や動物による害はよく耳にするけど、人間が食べる為にはなく、お金の為に植物を乱獲することも問題にもなっています。  
エビネやシラネアオイなどはほとんど見かけません。  
そんな中、西祖谷では、三十五年かけて、栗山でクマカインソウを増やそうと続け、千株と云うところの人がいます。  
このクマカインソウも、ほとんど群生地がありません。  
この山は人間の害、「金庫山」というところでしょうか。

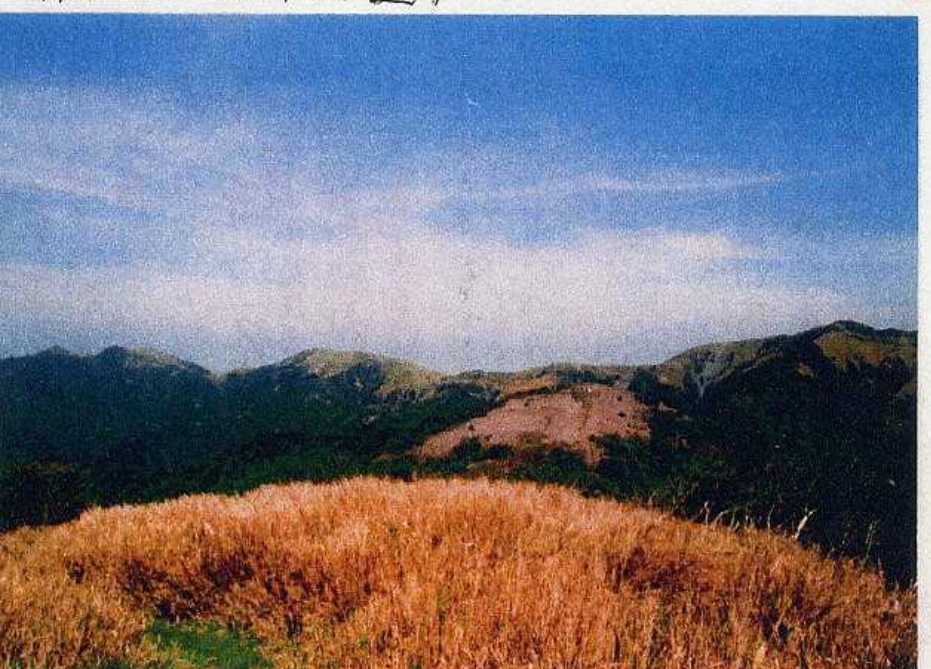
ります。大木も枯れている。  
ある所では、鹿の「食害」とも言われています。  
確かに祖谷では鹿をよく見ます。新  
聞で時々「コホニカモソカ」の「食害」とありますが、  
「コホニカモソカ」は「民家の近くで出逢う  
ことが多くなっています」。

高山では、林の中の下草が少なくなっています。  
緑は、はやく、ハゲ山状態になりつつあります。  
多分、鹿が食べているのだと思います。

人間サイドから見れば、鹿の「食害」といえますが、  
鹿のサイドから自然界を見れば、生き生きとした  
食料の生産です。彼らは食料を生産出来  
ないのですか？ 当り前の話ですが、  
「自然環境は変化しているよ  
うか、少くも、自然環境は変化しているよ  
うか」。

そんな山を歩いていると、時々、えんじゅとかとうもろこし  
があります。右のほう、ユキモクソウのようですが、  
色が違います。突然変異でしょうか。

緑がきれいで「けど、近頃はと、...



枯れたクササギがめつ山々